

2. 平成10年度事業計画

(1) 平成10年度の技術開発計画

調査項目		調査方法	当機関及び担当者
調査項目	技術開発項目		
種苗生産	1. 肥料の栄養塩濃度の測定	<ul style="list-style-type: none"> 固形肥料の栄養塩濃度の推移を測定し、その効果を把握する。 アンモニア、亜硝酸及び磷のヤコウガイ稚貝に対する急性毒と慢性毒について試験を実施し、毒性について把握する。 	玉城 英信
	2. ヤコウガイ稚貝に対する3種無機態窒素の毒性		
	3. 固形肥料の施肥効果	<ul style="list-style-type: none"> 殻高3.06mmの稚貝に対する固形肥料の効果を把握する。 	
	4. 種苗生産	<ul style="list-style-type: none"> 殻高7mmのヤコウガイ種苗を10万固体生産する。 	
中間育成	1. 稚貝の干出耐性試験	<ul style="list-style-type: none"> 這い上がりによる減耗を防止するため、ヤコウガイ稚貝に対する干出耐性を把握する。 	
	2. 這い上がりによるへい死防止試験	<ul style="list-style-type: none"> 休日、祭日などの出勤や作業の省力化を図るため、水道水を使用した這い上がり防止を検討する。 	
	3. フロリダ原産オゴノリ培養試験	<ul style="list-style-type: none"> ヤコウガイの中間育成技術を安定させるために、大量培養が可能なフロリダ原産オゴノリの培養試験を実施する。 	
	4. 大型種苗に対する固形肥料の施肥効果試験	<ul style="list-style-type: none"> 固形肥料を使用して、殻高20.2mmの大型種苗に対する施肥の効果を把握する。 	
	5. フロリダ原産オゴノリの餌料効果試験	<ul style="list-style-type: none"> 大量培養が可能なフロリダ原産オゴノリの餌料効果を把握する。 	
	6. 中間育成試験	<ul style="list-style-type: none"> 殻高25mm以上の放流稚貝2万固体を生産する。 	

放流技術	<p>1. 標識放流</p> <p>2. 漁獲物調査</p> <p>3. 資源量調査</p> <p>4. 標識脱落試験</p> <p>5. 殻の強度比較試験</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 着色ポリライトで標識した25mmサイズの種苗をヤコウガイ漁場付近の礁斜面に放流する。 • 大型のヤコウガイを漁場に標識放流し、ピーターセン法等により、天然貝の資源量を把握する。 • 漁業者及び貝殻取扱業者によって集荷されたヤコウガイの殻高、殻幅及び体重を測定し、殻の頂部を研磨することにより、標識の有無を調べ、再捕率を調べる。 • 漁業者1名に操業記録を依頼し、放流を行った漁場におけるヤコウガイの漁獲数を他の漁場と比較する。 • 標識した放流サイズのヤコウガイを一部陸上水槽で継続飼育し、標識の脱落率を調べる。 • 異なる餌料を与え、育成した種苗の殻の強度を比較する。 	牧野 清人
------	--	--	-------